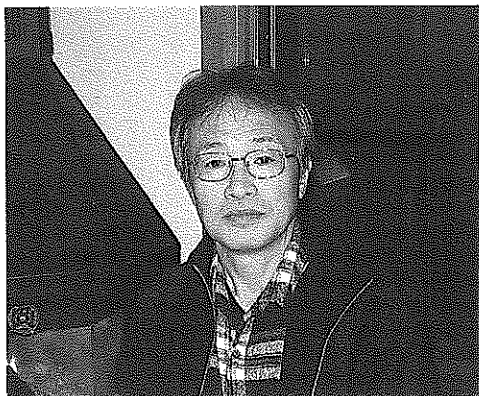


第2回
木にまつわる
技術・伝統 in いわて

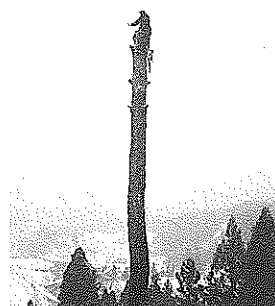
「木にまつわる伝統技術・伝統文化を今に伝える人々を発掘、その情報を本誌で発信することにより、地域に眠る技術・文化の見直しを図る。」このシリーズ、第2回は、県南の一閑地域で高所作業を行っている空師 菅原周一さんを紹介いたします。



菅原周一さん

空師とは、狭い敷地にある巨木を周りに迷惑をかけずに伐採する技術を持った人の事です。

樹上高く登り、てっぺんから枝を払い、空に近い場所で作業を行うことから空師と呼ばれます。



空師

いぐね（県南地方で特徴的な「屋敷林」で、防風などのため家屋の周りを囲んだ林）では、建物の側で大きく成長した木の枝が、屋根にかかったり、台風で折れることがあるので安全のための手入れが必要です。

また、最近では、墓地にある巨木が、同様の理由で枝払いや伐採が必要となっています。

菅原さんは東磐井地方森林組合の作業班で班長を務めており、除伐や間伐など森林整備が主な仕事ですが、年間70日程度は空師として高所作業を行っています。

空師の仕事を始めたきっかけは、たまたま身近にこの作業を行っている人を見知っていました。その頃、森林組合にこのような作業の依頼があり、誰もやる人がいなかったため、15年程前から行っているそうです。

教わった訳ではなく、まったくの独学で技を習得したとのこと。ほかの空師の高所作業方法の情報収集

をしており、特に装備には関心を持って情報を集めています。安全に作業を行うには、まずは命綱が肝心で、ツリークライミングとは共通した道具も多く、参考にしていただくといいと思います。

調べてみたところ、空師の高所作業は、普通、クレーンなどの重機とセットで行われるようですが、ほとんど重機が入れないところを頼まれるそうで、「クレーンで吊ることができればそれほど難しくないけれど、クレーンの使えない難易度が高いところばかり頼まれる。」と笑っておられました。

最近多く依頼のある墓地などでの作業は、ひどく偏心した木がありとても怖いそうです。また、クリなど裂けやすい木も危険で、木の質を熟知していなければできないし、伐採

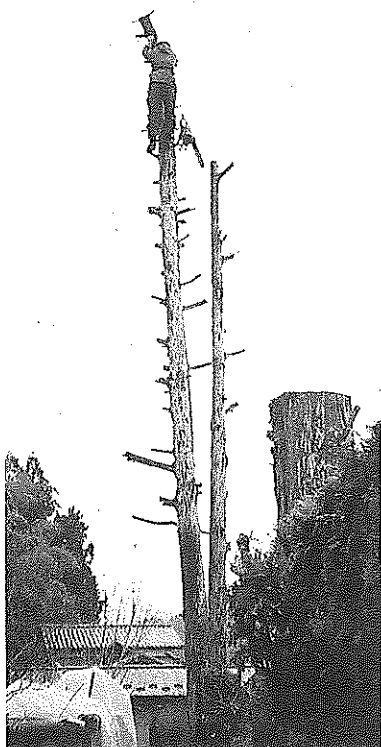
現場は常に条件がちがうので安全には細心の注意が必要と強調されました。チルホールを5台掛けたこともあるそうです。このことは、一般の森林施業にも同じことが言えると思います。

空師の後継者について伺ったところ、伐採の基本をマスターした人に何とか伝えたいが、今は残念ながらできていないとお答えでした。

地元、大東・大原の水かけ祭では毎年、田植え踊りの世話役を務め、また、かじかの里復活事業では、主要なメンバーであり、地域貢献にも力を入れている菅原さん、ぜひ、空師の技術伝承もお願いいたします。

林業技術センター普及班

019(698)1337



住宅街での伐採